

□地域一体型医療・介護連携における栄養管理の現状と課題

研究課題名	地域一体型医療・介護連携における栄養管理の現状と課題
研究期間	2020年4月～2021年3月
研究対象	昨年1年間に当院に入院した患者
研究の目的・方法	<p>全国の介護人口は、600万人を超え、総介護費も10兆円を超え、年々増加している。同じく国民総医療費も43兆円を超え、年々増加している。現在、総医療費の約40%を75歳以上の後期高齢者が占め、2040年に4,000万人をピークに高齢者は増え続けると推計されている。医療費も介護費も膨らみ続けることは必至である。この現実はどう向き合うのか一人一人の日本人が真剣に考えなければならないと思っている。</p> <p>当院は、市内唯一の3次救急病院であり、慢性期病院や施設、在宅から救急搬送される高齢者を多く受け入れている。高齢患者さんの背景は複雑多岐である。家族や施設の形も時代と共に変化しスムーズな退院が難しいケースも多い。当院のNSTは、高齢患者さんの幸せに向き合い、尊厳を重視する姿勢を見失わず、寄り添える支援をすることを重視した活動をしてきた。その姿勢を常に持ち、地域と連携する栄養管理を実施することが、ひいてはこの国の社会保障制度の存続が可能になるのではないかと考えている。</p> <p>高齢の終末期患者さんの多くは、容易に悪液質に陥り経口摂取が困難となり、栄養状態が悪化する。嚥下機能も低下し、食事の物性も考慮する必要がある。このような中、最期まで食べられる幸せを支えることを重視し、当院NSTが介入した患者さんの分析を行うことで、地域一体型の医療・介護連携の中での栄養管理の重要性と今後の課題について明らかにするための研究を行いたい。</p>
研究に用いる試料・情報	<p>NSTシステムに保存されている情報を取得する。</p> <p>年齢 BMI</p> <p>退院時の栄養管理内容</p> <p>退院時のALB</p> <p>退院先施設</p> <p>退院に関しての問題点 (DNAR、ACP、AHN 情報含め)</p>
研究責任者・担当者	栄養管理室室長 田崎 亮子